

地域社会に対する誇りと愛情を育てる社会科学習の在り方  
～地域に残る遺跡や受け継ぐ人々の想いに触れる学習を通して～





はじめに

本実践のはじまりは、4年前、「なぜ玉造という地名なのか」という疑問を私自身が抱いたことがきっかけである。地域の方に話を聞くと、玉造地域の歴史は古く、歴史的な遺跡や古墳も保存されていることが分かった。しかし、そのことが地域の人々にあまり知られていないことも知り、どうにか児童に地域のよさを伝えていけないかという思いが芽生えた。当初、総合的な学習の時間で遺跡を教材として取りあげたことで、本実践の素地ができていた。今回、その学習を基盤にして、社会科の学習で地域に残る遺跡を教材として扱うことで、児童に地域に対する誇りや愛情を育むことができると考え、本実践に至った。

## 1 研究主題

地域社会に対する誇りと愛情を育てる社会科学習の在り方  
～地域に残る遺跡や受け継ぐ人々の想いに触れる学習を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 現代社会の要請から

総務省の令和5年度の発表によると、過疎地域の人口は全国の9.3%を占めるに過ぎないが、市町村数では半数近く、面積では国土の約6割を占めている(資料3)。こういった問題の背景には、地方から都市部への人口流入、少子高齢化などの要因が関係しており、今後予測されている人口の急激な減少の原因ともいえる。

このような社会背景のもと、第4学年では、郷土の発展について学習する。児童が、自分たちの住む地域の文化財について学習し、地域で保存されてきた文化財や保存に携わった人々の想いについて理解を深め、そこから自分にできることは何か課題を見いだしていくことが重要であると考えます。

### (2) 学習指導要領から

本実践は、学習指導要領解説社会編の第4学年の目標及び内容を受けて設定している

#### 目標

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

#### 内容

- (4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。  
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

### (3) 印教研社会科研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習  
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本実践では、印教研社会科の研究主題にもある、よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習を目指している。この学習を通して、身近な地域の遺跡や地域のために行動している人々の想いを教材化することで、地域に対する誇りをもち、自ら進んで地域と関わり、行動する児童の育成ができるようになる。また、自分たちの住む身近な地域を題材として扱うことで、関心を抱き、主体的に課題を見出す力や地域のために何ができるのかについて考え、表現する力を身に付けることもできると考える。

そして、印教研社会科研究部の目指す、学んだことを実生活や実社会において、どのように生かすことができるのか、自分にも関わることがあるのではないかと考え続ける児童を本実践により育成できると考えている。

### (4) 先行研究から

本実践を進めるにあたり、第 65 次印旛地区教育研究集会で提案された印西市立大森小学校高橋堅介教諭の「地域への誇りと愛情を育てていく社会科学習のあり方～地域に受け継がれる祭り行事を通して～」を参考にした。高橋教諭の提案は、地域の社会的事象を教材化しており、本実践と通ずるものがあると考えたからである。この研究において「地域人材を活用して、祭りに対する思いや継承のための工夫や努力に直接接触させたことで、人々を大切に思ったり、地域に目を向けて関わりを考えたりすることができた。」という結果がある。これを受けて、本実践でも、地域人材の活用や遺跡の保存に尽力した方の思いに直接接触れることのできる教材開発を行っていくこととする。

### (5) 児童の実態から (4年1組 34名)

成田市立玉造小学校は、昭和 56 年に開校し、43 年目を迎えた学校で、現在、児童数は 202 名、各学年 1 学級、特別支援学級 3 学級の計 9 学級の学校である。

事前に行ったアンケート調査の結果(資料 4)から、児童は地域に対して、よいところだと思ふ気持ちや大切にしたい気持ちはあるが、自分から地域のために行動しようと考えている児童は少ないことがわかった。そのため、本実践では、地域に対する誇りや愛情を育むと共に、地域に対して自分は何ができるか考える児童の育成を目指していく。

## 3 主題について

### (1) 本実践で目指す児童の姿

以上の児童の実態等を踏まえて、本実践で目指す児童の姿を以下の 2 点とした。

- ・地域に残る文化財が、地域の人々の手によって保存され、受け継がれてきたことへの理解を通して、地域に対する誇りや愛情をもつことができる児童
- ・地域の遺跡やそれを残していこうとする人々の想いを受けて、自分ができることについて考え、実際に態度や行動で表現できる児童

- ・「地域に残る文化財が、地域の人々の手によって保存され、受け継がれてきたことへの理解」とは、地域に残る文化財について理解することにとどまらず、それらを保存しようと努力し、その想いを現代まで受け継いできた人々がいることについても理解することである。
- ・「地域の遺跡やそれを残していこうとする人々の想いを受けて、自分ができることについて考える」とは、地域の遺跡を残していこうとする人の想いを受けて、児童が地域を見つめ直し、自分たちも地域に対して何かできることはないか考えることである。
- ・「実際に態度や行動で表現できる」とは、自分たちが住む玉造地域を誇りに想い、これからも地域を大切に守っていくために、どのような取り組みができるのかを言葉や行動などで表現できるということである。

#### 4 教材について（資料6参照）

本実践では、八代玉作遺跡とその周辺の古墳群を教材として取り上げる。

昔、成田ニュータウン地区は、公津原と呼ばれ、一面に原野が広がっていた。江戸時代の『利根川図志』にも、この一帯に多くの古墳が存在していたことが記録されている。昭和44年～46年に行われた成田ニュータウン建設で半数以上の古墳が消滅したが、関係者の努力により公園や緑地として保存された。平成2年には、現存する古墳が県の史跡として指定された。八代玉作遺跡は、昭和37年に発掘調査が行われ、玉の製作をするための家や工房跡が発見された。昭和42年12月2日に県指定史跡に指定された。

本実践においては、歴史的背景を発達段階に応じて理解しやすくするために自作の資料を作成した。さらに、保存や伝承に携わる人との交流の場を設定し、当時の願いや想いに触れさせたい。

#### 5 研究の目標

本実践を通して明らかにすることを以下の2点とした。

- ・玉造地域に残る史跡や、それを残すために活動した人と関わり合う学習を展開すれば、児童が主体的に学習活動を行い、地域の歴史的事象への理解を深めて地域に対する誇りや愛情をもつことができる
- ・地域の遺跡や人々の想いを理解した上で、児童の想いを伝える場を設定すれば、自分と玉造地区との関わり方について考え、地域のためにできることを態度や行動で表現できる

#### 6 研究の仮説及び手立て

##### 【仮説1】

地域に残る遺跡を教材化し、歴史的背景や遺跡の保存に関わった人の想いに触れる学習を展開すれば、人々の願いや願いについて理解を深め、地域に対する誇りや愛情がもてるようになるだろう。

### 【手立て①】自分たちの住む地域について関心をもち、問題意識を高める導入の工夫

自分たちの住む玉造地域に関心がもてるように、児童にとって身近な学校に関係のある校章と校歌を資料として取り扱う（資料9-①，②）。玉造小学校の校章には、勾玉や管玉の形が描かれており、校歌の歌詞にも昔を偲ぶ言葉が使われているためである。また、現在と過去の地図を見比べる活動を取り入れることで、自分たちの住む地域が昔どのような場所で、どのような経緯で今に至るのかという疑問をもつことができると考える（資料9-③）。八代玉作遺跡の発見にちなんで、「玉造」という地名が誕生し、玉造小学校が開校した経緯があるため、自分たちの身近なところからイメージを膨らませることで、自分たちの住む地域に歴史的背景があるという気付きが生まれ、地域についてもっと知りたいという意欲を引き出すことができると考える。

### 【手立て②】児童にとって身近な文化財の教材化と、段階的な授業展開

玉造地域には、管玉を作っていた工房跡の玉作遺跡や、成田市を代表する公津原古墳群が点在し、身近に歴史を知る手掛かりがある。本実践で、児童が地域への理解を深め、誇りや愛情を育むには、自分たちの住む地域の遺跡やそれに関わってきた人々の想いを取り上げることが有効ではないかと考える。実態調査の結果からも、約半数の児童は、玉造地区に文化財が残っていることを知らないことが分かっている。そのため、本実践では、段階1〈関係する事象や人物に出会う〉、段階2〈歴史的な事象や遺跡の保存に関わった人物の想いを理解する〉、段階3〈自分の想いや地域との関わりをまとめる〉の3つの段階に分けて構成（資料10）することで、歴史的な事象や地域の人々の想いや願いを理解し、地域に対する誇りや愛情を育むことを目指していききたい。

### 【手立て③】歴史的な事象への理解を深めるための追体験

玉造の地名の由来にもなった、勾玉作りを実際に体験する学習を総合的な学習の時間をつかい社会科の学習と並行して進めていく。古代の人々が行っていたことを追体験することで、地域の歴史への関心をより一層高め、さらに追求しようという姿勢につながるだろう。そこから、自分たちがこれから地域に対してどのように関わっていけばよいかという態度の育成につなげていきたい。

### 【仮説2】

遺跡の保存に関わった人々の想いや願いにふれ、児童の想いを反映する場を設定すれば、自分と地域社会とのかかわり方について考え、地域に対する誇りや愛情を表現できるだろう。

### 【手立て①】共感する場の設定

地域に対して、誇りや愛情を感じることは、児童にとって認知しにくい感情であると予想できる。そのため、児童同士で意見を交換する時間を設定し、相手に共感してもらうことで、地域に対する自分の想いに気付けるようにしたい。そして、まとめあげる際には、グループで活動させることで、地域に対する誇りや愛情を、自分なりの言葉や態度で表現することができると思う。

### 【手立て②】自分にあつた方法を選択し、身近な人に想いを伝える

身近な人（家族や他学年の児童）に対して、玉造地域の歴史について学習した内容をまとめ、想いを伝える場を設ける。学習を通して芽生えた地域に対する想いを、身近な人にも共感

してもらふことで、その想いが一層大きくなり、これからも郷土のために行動しようという態度が育つと考える。

表現方法は、児童が伝えたい内容に合った方法を選択させ、個別最適な学びに繋げたい。発表の際は、必ず地域に対する自分の想いを表現し、どのような考えや想いをもったのか明確にさせるようにすることで、誇りや愛情を育ませたい。

## 7 単元について

(1) 単元名 残したいもの 伝えたいもの (11時間+総合4時間)


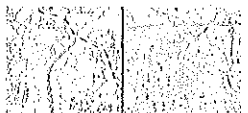

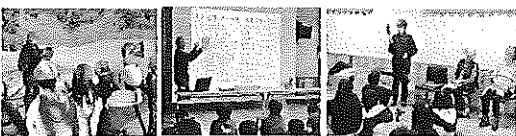

(2) 単元目標

- ・玉造地域の歴史的背景について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、玉造地域の歴史的背景や保存や継承をする人々の想いを理解することができる。 (知識及び技能)
- ・これまでに遺跡を発掘調査したり、歴史を守り、語り継いだりしてきた人の想いを理解し、自分たちが地域の発展のためにできることを考えたり選択・判断したりして表現することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・主体的に学習問題を追求・解決しようとする態度や、地域の文化財の保存や継承に関わっている人々の働きを知り、自分たちができることを考えようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

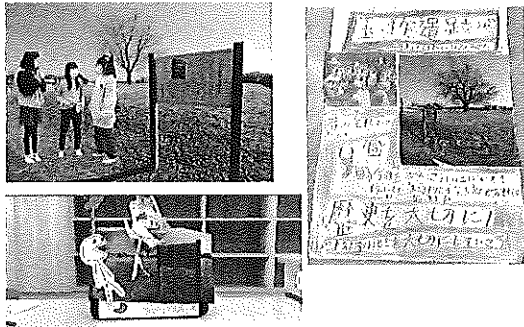
(3) 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどについて調査したり、調べたりして地域の文化財の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを整理して、玉造地区に残されている文化財には地域の発展など人々のさまざまな想いが込められていることを理解している。</p>	<p>①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、問いを見だし、地域の文化財の様子について考え表現している。</p> <p>②文化財を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の想いを関連付けて、人々の願いや努力について考えたり、学習したことをもとに地域の文化財の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。</p>	<p>①地域の文化財について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究・解決しようとしている。</p> <p>②地域の文化財の保存や継承に関わって、地域の発展のために自分たちにできることなどを考えようとしている。</p>

(4) 単元計画

過程	段階	時配	学習活動	本時の評価規準	評価の方法	仮説との関連
見いだす	段階1「関係する事象や人物に出会う」	1	<p>○玉造は昔、どんな場所だったのだろう。</p> <p>○校章の形に注目して予想する。</p>  <p>○校歌の歌詞に注目して予想する。</p> <p>○現在と過去の地図を比べてみて予想する。</p>   <p>○地域の昔の様子について考えた疑問をもとに、学習問題をつくる。</p> <p>玉造地域には、どのような文化財があり、どのようにして受け継がれてきたのだろう。</p>	<p>〈思判表①〉</p> <p>地域の現在にいたるまでの経過に着目して、問いを見出しているか。</p> <p>〈主態①〉</p> <p>予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか。</p>	<p>発言内容</p> <p>ノートの記述</p>	<p>【仮説1】手立て①</p>
		2	<p>○地域に残る遺跡と古墳についてフィールドワークを行う。</p> <p>○保存に携わる人から遺跡や古墳についての話を聞く。</p> <p>○発掘調査に関わった人から当時の様子や想いについて話を聞く。</p> 	<p>〈知技①〉</p> <p>地域を調査したり、調べたりして地域の文化財の様子を理解しているか。</p> <p>〈主態①〉</p> <p>地域の文化財について学習したことを振り返り、問題を追求し、解決しようとしているか。</p>	<p>振り返り</p> <p>カード</p> <p>発言内容</p>	<p>【仮説1】手立て②</p> <p>下地歴史民俗資料館Tさん</p> <p>発掘調査をしたじさん</p> <p>Kさん</p>
		3 (総合4時間)	<p>○玉造地域はどのようにして現在に至ったのかについて調べる。(調べ学習①)</p> <p>○玉造地域は、以前はどのような場所だったのかについて調べる。(調べ学習②)</p> <p>○遺跡などを守ろうとする人々はどのような想いをもって活動していたのか調べる。(調べ学習③)</p> <p>○勾玉作りを行い、昔住んでいた人々の暮らしを追体験する。(総合4時間)</p>  <p>総合「勾玉ってなに」(4時間)</p>	<p>〈知技①・②〉</p> <p>地域の遺跡やそれに関わった人々について調べ、その様子や想いを理解しているか。</p> <p>〈主態①〉</p> <p>地域の文化財について学習したことを振り返り、問題を追求し、解決しようとしているか。</p>	<p>ノートの記述</p> <p>振り返り</p> <p>カード</p>	<p>【仮説1】手立て②</p> <p>【仮説1】手立て③</p> <p>【仮説2】手立て①</p>
広げ深める	2	<p>○調べてわかったことを話し合い学習のまとめをする。</p> <p>○これまでの学習を通して、自分はどんな考えをもったのか伝え合う。</p> <p>玉造地域には、八代玉作遺跡や古墳が残されている。それらは、昔から大切にしようとする人々の想いによって守られてきた、</p>	<p>〈主態①〉</p> <p>地域の文化財について学習したことを振り返り、問題を追求し、解決しようとしているか。</p>	<p>発言内容</p> <p>振り返り</p> <p>カード</p>	<p>【仮説2】手立て①</p>	



段階3 「自分の思いや地域との関わりをまとめる」 まとめあげる	3	<p>○玉造地域についての自分の思いをまとめて身近な人に伝える。</p> <p>○学習に関わってくれた人に対して、自分の思いを手紙にする。</p>	<p>〈思判表②〉</p> <p>地域の文化財の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。</p> <p>〈主態②〉</p> <p>地域の文化財の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。</p>	<p>表現物</p> <p>手紙</p> <p>動画</p> <p>ポスター</p> <p>ペープサート</p> <p>スライド</p>	【仮説2】手立て②
					

## 8 仮説の検証と授業の実際

### (1) 仮説1について

#### ① 仮説1-① 問題意識を高める導入の工夫の検証

学習の流れ	児童の反応
○玉造は昔、どんな場所だったのだろう。	「玉造という地名はなかったかもしれない。」 「人は住んでいたのかな？」
○校章の形に注目して予想する。	「勾玉が隠れていると聞いたことがある。」 「玉造の玉は勾玉のことかな？」
○校歌の歌詞に注目して予想する。	「小高い森という歌詞は昔の様子かな？」 「ゆかしいという歌詞があるから、歴史がある場所かもしれない。」
○現在と過去の地図を比べてみて予想する。	「玉造という地名は前からあったわけではない。」 「遺跡という場所があるけど何があったのだろう。」

#### 児童の感想

玉造にゆかりがあるのを知ってうれしかった。いろいろなことを調べてみることにしよう。

この校章に、いろいろな思いがこめられている。これからは玉造を大切にしよう。

玉造をいろいろ調べたい。

しゃしんを見ながら玉造の昔について話したら、ちがうところがたくさんあつた。かおとないところもあつた。つぎに成田の昔のしゃしんをみたりもついで昔の玉造のしゃしんをみてみたい。ちがうところのしゃしんをみてもいい。

自分たちの住む地域の昔の姿を想像するということは児童にとってイメージしづらいことである。しかし、児童にとって身近な校章や校歌を資料として提示し、予想させることで昔の姿をイメージしやすくなった。また、その後には過去と現在の地図を見比べ、現在の姿を想像させることで、「玉造地区がどのようにして現在の姿になったのか」という課題をもつことができた。

#### ② 仮説1-② 段階的な授業展開についての検証

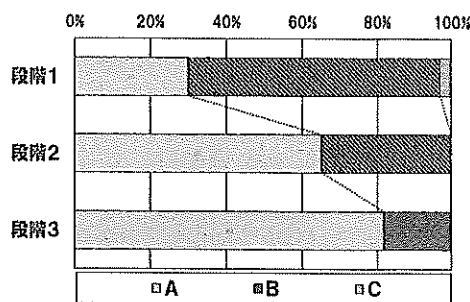
仮説1-②の検証として、評価規準を基に学習の到達度を評価する。学習の段階ごとに、ルーブリック表（資料17）を用いて、分析していく。

段階1「関係する事象や人物に出会う」では、A評価が30%、B評価が67%、C評価が3%という結果になった。この段階では、歴史民俗資料館のTさんから玉作遺跡や古墳について教えてもらうことが中心であり、情報量も多かったため半数以上の児童が内容を理解することにとどまり、振り返りが書けなかった児童もいたのではないかと考えられる。しかし、3割の児童は、教えてもらったことを振り返り「もっと調べてみたい」や「資料館に行ってみよう」と主体的に学びに向かう姿が現れた。Tさんとの事前の打ち合わせで、歴史的背景だけでなく、どのような思いで保存に携わったかについても触れて欲しいと依

頼をしており、Tさんや当時発掘調査を行ったKさん、Uさんから当時の様子について話をしてもらったことで、遺跡に関わった人々がいることについても認知することができたと考えられる。

段階2「歴史的事象や遺跡の保存に関わった人物の想いを理解する」では、A評価が65%、B評価が35%という結果になった。この段階では、3つの視点に分けて調べ学習を行った。それぞれの学習後の評価（資料18）を見ると、少しずつ理解が深まり、問題を追求し、解決しようとする児童が増加したといえる。その要因として、調べ学習の際に使用した資料が効果的であったと考えられる（資料12）。この資料は、発達段階を考慮して教師が自作したものであり、歴史的背景の理解がしやすく、考えが深まったのではないだろうか。また、この時に、段階1で扱った発掘調査に関わった人から聞いた当時の様子や想いを資料として活用したことが、保存に関わった人々の想いをより深く理解させることにつながった。

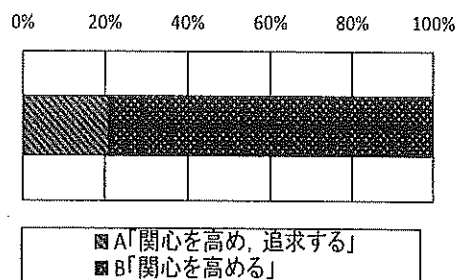
段階3「自分の想いや地域との関わりをまとめる」では、A評価が82%、B評価が18%という結果になった。この段階では、家族や身近な人に、玉造地区の歴史やそれに関わった人の想いを受けて、自分はどのように考えているか表現する活動を行った。表現方法は、統一するのではなく、自分の想いが伝わるように考えて選択させた（資料15）。また、この学習を支えてくれたTさんたちにも学習を通して感じたことを手紙にする活動も行った（資料16）。約8割の児童が自分の想いを表現することができ、尚且つ、これから地域に対してできることはないか考えようとする態度がみられるようになった。



### ③ 仮説1-③ 歴史的事象への理解を深めるための迫体験の検証（資料14参照）

仮説1-③の検証として、勾玉作り後の感想から、歴史的事象への関心を高め、追求しようとする姿勢が見られるか検証する。

検証の結果、A「関心を高め、追求する」が21%、B「関心を高めた」が79%という結果になった。この結果から勾玉作りを通して、玉造地域の歴史的背景への関心が深まり、追求して調べようとする姿勢に繋がった考える。



## (2) 仮説2について

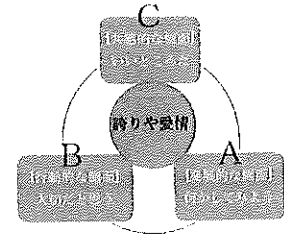
### ○地域に対する誇りと愛情の変容の検証

仮説2に関しては、手立て①、②を踏まえて、児童の地域に対する誇りと愛情の高まりがみられたかを検証していくこととする。検証にあたっては、以下の2つの観点で誇りと愛情の高まりを見取っていく。

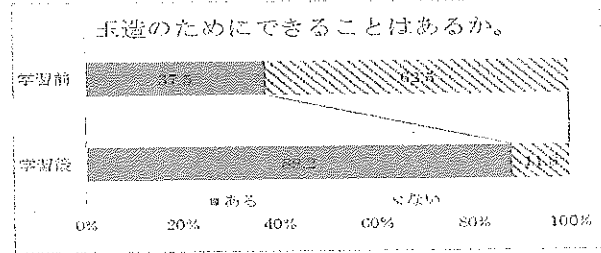
- 観点① 授業前と授業後に児童を対象に行ったアンケート調査
- 観点② 授業毎に書いた、振り返りカード

## 観点① 児童のアンケートの結果

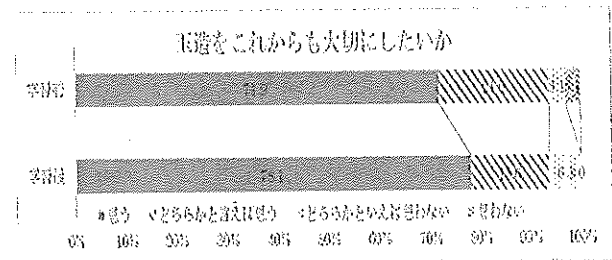
本実践では、研究主題にも掲げている地域社会に対する誇りと愛情を見取る側面として右図の構造図（資料 19）をイメージした。これに則って児童の変容を見取っていく。



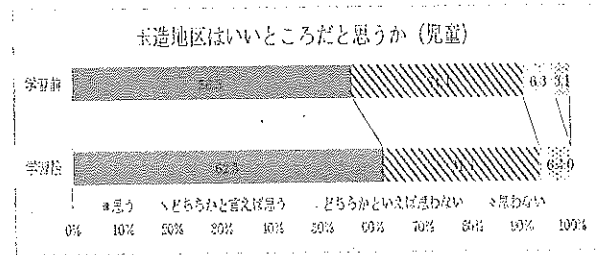
3つの側面のうち、最も変容が見られたのは、Aの発展的側面を問うた『玉造のためにできることはあるか』の回答だった。学習の前後で、約50ポイントの増加が見られた。理由を問うと、学習前は、「掃除をしている」という回答がほとんどだったが、学習後は、「遺跡について伝えていく」や「遺跡を残していくために掃除をする」といった回答が多く見られ、具体的な行動をイメージし、その理由が地域に根ざしたものに変化していることが読み取れた。



Bの行動的な側面を問うた『玉造をこれからも大切にしたいか』の回答には、大きな変化は見られず、「大切にしたい」と回答した児童は、学習の前後では、6.2ポイントの増加に留まったが理由に注目すると、学習前は、「住んでいる場所だから」といった回答がほとんどだったが、学習後は、「遺跡や古墳をこれからも残していきたいから」、「頑張って発掘してくれた人がいるからその努力を無駄にしたくない」、「自分の誇りの場所だから」という理由が増えた。大切にしたい根拠に、地域との関わりを捉える表現が多く見られるようになった。



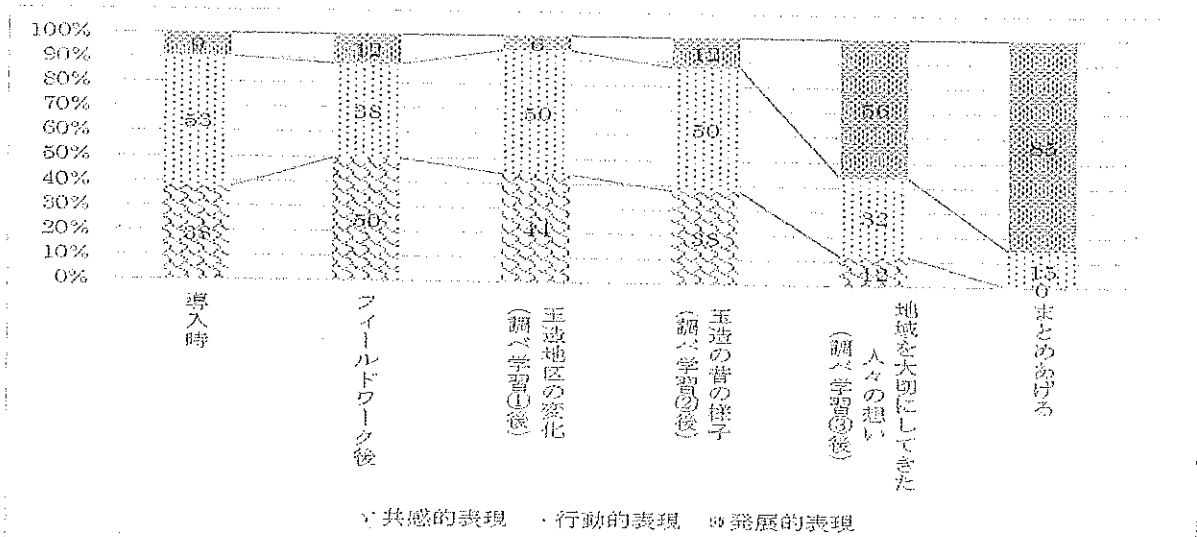
Cの共感的な側面を問うた『玉造地区はいいところだと思うか』の回答も、学習前後で6.2ポイントの増加であった。こちらの設問も理由に注目すると、学習前は「遊べるから」「楽しい場所だから」といった回答が目立ったが、学習後は、



「歴史があってすてきな場所だから」、「みんなに自慢できるから」といった回答が多く見られ、学習を通して歴史的事象から地域のよさを児童が感じていることがうかがえた。

## 観点② 授業毎に書いた、振り返りカードの結果

児童の振り返りの文言を3つの段階に分けて、分析する。分析方法として、第65次印旛地区教育研究集会八街市立実住小学校能村幸恵教諭の実住式自らを振り返る思考分析表を参考にし、独自の分類表（資料 20）を作成し、検証した。



分析の結果、導入から玉造の昔の様子（調べ学習②）までは、大きな変化は見られず、C：共感的表現とB：行動的表現が共に40～50%ほどだった。しかし、地域を大切にしてきた人々の想い（調べ学習③）を学習した後は、A：発展的表現が44ポイント増加した。さらに、まとめあげるでは、85%の児童の振り返りからC：発展的表現を見取ることができ、29ポイント増加した。これは、地域人材を活用したことが大きな要因であると考えられる。調べ学習の①と②は、歴史的背景を調べる学習であり、「すごいと思った」、「次は〇〇について調べたい」といった表現が多く見られた（資料18）。それに対して、調べ学習③は、文化財の保存に関わったKさんやUさん、そして地域に長く住んでいるFさんのインタビュー結果をまとめたものを資料として取り扱い、その人々の想いについて調べていく学習だったため、「自分も地域を大切にしていきたい」、「遺跡のことを〇〇に伝えていこう」といった表現が増加したと考えられる（資料18）。また、まとめあげる・いかすでも大きな変化が見られたが、その要因として「共感する場の設定」（仮説2-①）の手立てが有効であったと考えられる。毎時間、振り返りを数人と共有させる場を設定したことで、自分以外も同じような考えをもっていると気付くことができ、さらに、同じような考えをもったグループで表現活動をしたことで、発展的表現が増加したと考えられる。

## 9 成果と課題

### (1) 成果

- ・地域の遺跡などを教材として扱うことで、地域の人々の想いが児童に響き、地域に対して誇りや愛情を感じ、地域のために行動しようとするきっかけになった。
- ・地域人材の活用をすることで、地域社会を大切に想う気持ちに共感し、地域と関わりをもって生活しようとする児童が現れた。

### (2) 課題

- ・地域の特色を生かして今後も学習を進めるために、地域人材の見直しや教材の改善をおこなって、人材リストを創るなどの環境を整える必要がある。
- ・共感する場の設定は、最後の表現活動つながり、効果的であったと捉えているが、根拠が、児童の発言に基づくものであり、明確な根拠をもって実証することができなかった。

地域社会に対する誇りと愛情を育てる社会科学習の在り方

～地域に残る遺跡や受け継ぐ人々の想いに触れる学習を通して～

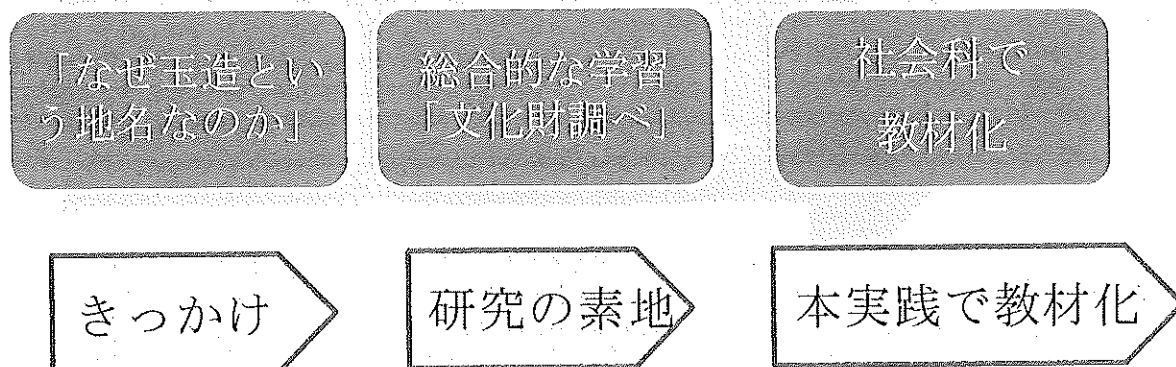
# 資料編

## 目次

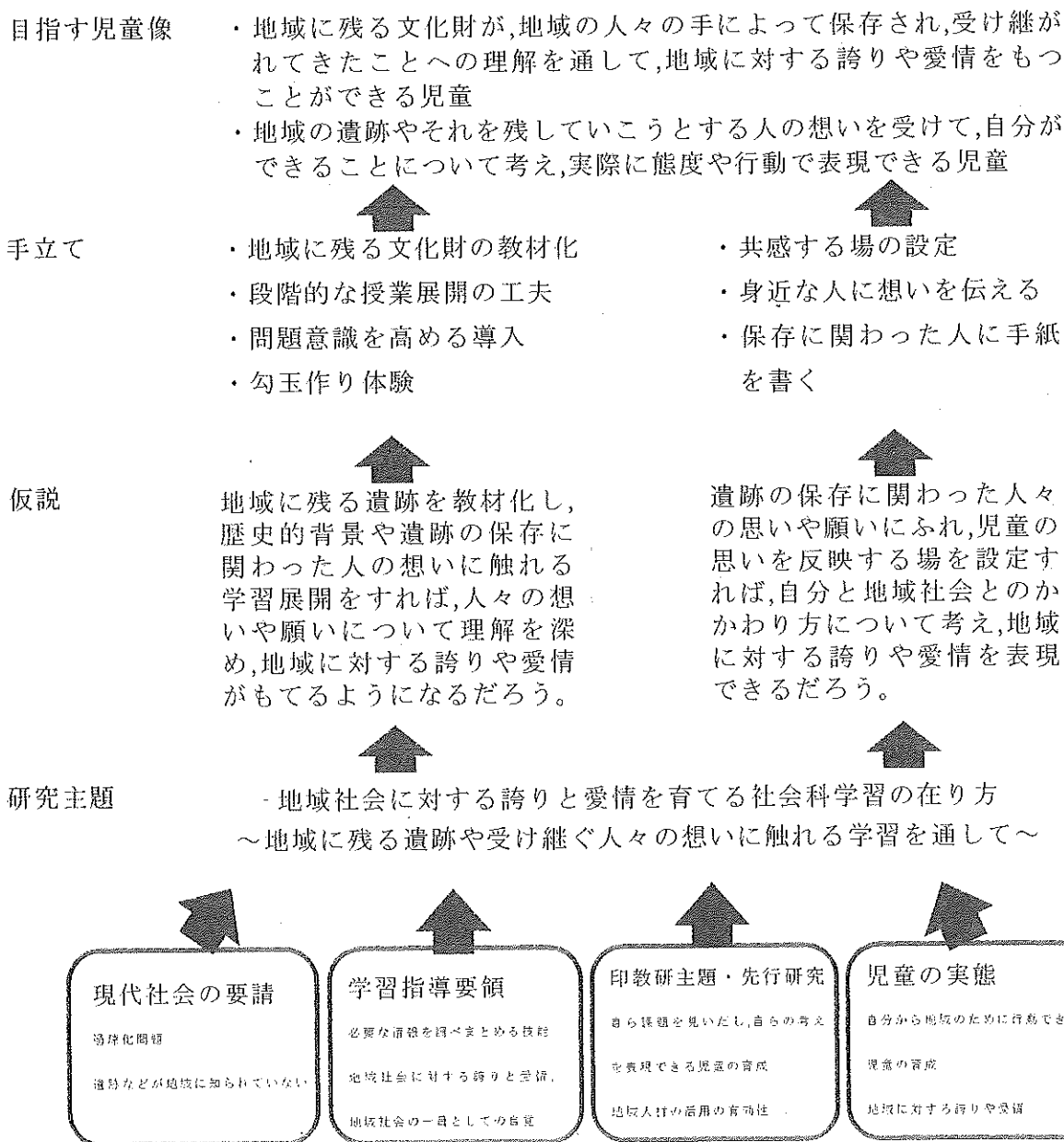
資料番号	タイトル	ページ
資料1	本実践に至るまでの経緯	P.1
資料2	研究構造図	P.1
資料3	過疎地域の概要	P.2
資料4	児童のアンケートの結果	P.2～4
資料5	保護者のアンケートの結果	P.4～5
資料6	教材化した遺跡、古墳の写真	P.5
資料7	仮説1の構造図	P.6
資料8	仮説2の構造図	P.7
資料9	学習導入時に使用した資料	P.8～10
資料10	誇りや愛情を育む授業構成図	P.10
資料11	フィールドワークの様子	P.11
資料12	調べ学習の際に使用した自作資料と作成のポイント	P.12
資料13	インタビューの原稿	P.13
資料14	勾玉作りのワークシート	P.13
資料15	児童の表現物	P.14
資料16	授業後に書いた手紙	P.15
資料17	段階ごとの評価のためのルーブリック表	P.15～16
資料18	段階2の調べ学習後の評価	P.17
資料19	児童のアンケートにおける3つの視点	P.18
資料20	情意面分類表	P.18
資料21	学習後の感想のテキストマイニング	P.19
資料22	仮説2の検証 保護者のアンケート結果の考察	P.19
資料23	保護者の考察も踏まえたイメージ図	P.20



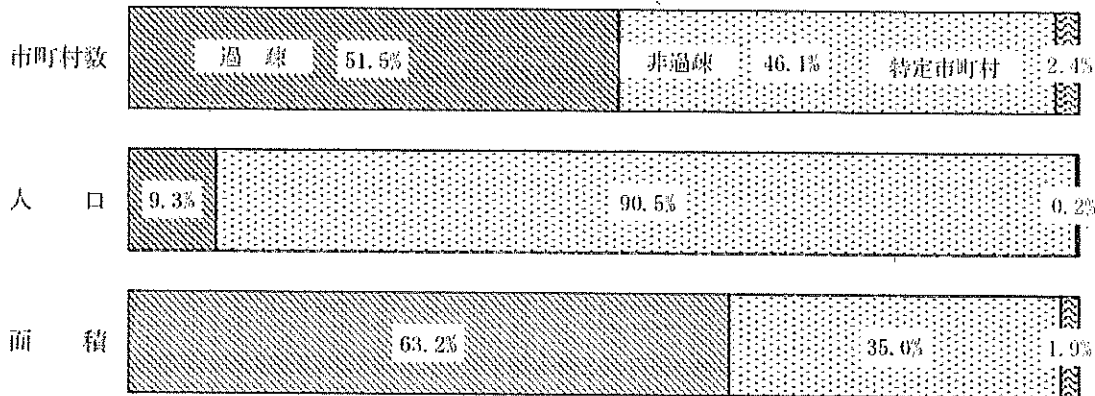
資料 1 本実践に至るまでの経緯



資料 2 研究構造図



資料3 過疎地域の概要（市町村，人口，面積）



（出所：総務省 令和3年度版 過疎対策の現況）

資料4 児童のアンケートの結果

①社会科の学習は好きですか。

	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
事前調査	13名	16名	5名	0名
事後調査	18名	14名	2名	0名

②社会科の学習をされていてどんなときに楽しいと感じますか。（複数回答）

	事前調査	事後調査
資料を見て考えているとき	9名	18名
わからないことを調べているとき	10名	15名
実際に見学したり体験したりするとき	22名	28名
ノートにわかったことをまとめているとき	6名	13名
わからないことを誰かに教えてもらったとき	2名	10名
図や絵にしてまとめるとき	1名	2名

③玉造地区はよいところだと思いますか。

	思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
事前調査	18名	13名	2名	1名
理由	○友だちと遊べるから 8名 ○楽しい場所だから 5名 ○公園があるから 5名	○友だちや家族が住んでいるから 6名 ○学校があるから 4名 ○楽しいから 3名	○よいところか分からないから 2名	○思わないから 1名
事後調査	22名	10名	2名	0名
理由	○みんなに自慢できるから 3名 ○歴史があってすてきな場所だから 5名 ○遺跡や古墳がすごいと思	○玉造のことを知ったから 5名 ○友だちと遊べるから 2名 ○大切にしたいから	○まだわからないことがあるから 2名	



	うから ○遺跡が残っているから 5名	10名	3名		
--	--------------------------	-----	----	--	--

④地域のためにできることはありますか。

	ある	ない
事前調査	12名	22名
理由	○掃除をする・・・4名 ○安全に暮らす・・・3名 ○ポイ捨てをしない・・・3名 ○文化祭・・・1名 ○習い事を頑張る・・・1名	
事後調査	30名	4名
理由	○遺跡のことを広めていく・・・12名 ○遺跡を守るためにごみ拾いやボランティアをする・・・18名	

⑤玉造地区に昔の暮らしの様子が見られる場所が残っていることを知っていますか。

	知っている	知らない
事前調査	19名	15名

⑥玉造地区をこれからも大切にしたいですか。

	したい	どちらかという としたい	どちらでもない	どちらかという としない	したくない
事前調査	23名	8名	2名	0名	1名
理由	○自分の住んでいるところだから 13名 ○安全に暮らせるから 5名 ○楽しいから 5名	○みんなといると楽しいから 6名 ○公園があるから 2名	○あまり知らないから 2名		○玉造のことをまだ分からないから 1名
事後調査	27名	5名	2名	0名	0名
理由	○玉造のよさをみんなに知って欲しいから 3名 ○玉造のことをもっと知りたいから 2名 ○遺跡などを未来まで残したいから 6名	○いろいろな遺跡が残っているから 4名 ○楽しいから 1名	○まだわからないことがあるから 2名		

○自分の誇りの地区 だから 6名					
○頑張っで発掘して くれた名の努力を 無駄にしたいくない から 5名					
○故郷だと感じるか ら 5名					

資料5 保護者のアンケートの結果

①玉造の地名の由来を知っていますか。

知っている	知らない
13名	17名

②玉造は住んでいて良いところだと思いますか。

	思う	どちらかというと思う	どちらでもない	どちらかというと思わない	思わない
事前調査	18名	11名	1名	0名	0名
理由	○自然が多く安全 10名 ○子育てしやすい 8名	○穏やかだから 6名 ○昔から住んでいるから 3名 ○必要な施設が揃っている 2名	○静かだから 1名		
事後調査	24名	5名	1名	0名	0名
理由	○遺跡が身近にあるから 15名 ○子どもが大切にしたいと思っているから 4名 ○子どもの発表を聞いて 5名	○昔から住んでいて改めていいところだと感じたから 3名 ○子どもの発表を聞いて地域について勉強になったか 2名	○遺跡を残すこともいいがこれから先の心配がある 1名		

③玉造地区には遺跡や古墳が残っていることを知っていますか。

	知っている	知らない
事前調査	28名	2名

④玉造地区に残る遺跡や古墳を大切にしたいと思いませんか。

	思う	どちらかというと思う	どちらでもない	どちらかというと思わない	思わない
事前調査	16名	12名	2名	0名	0名
理由	○子どもたちの学習に役立つことから 5名 ○歴史があるから 3名 ○大切だから 8名	○珍しいから 5名 ○歴史を大事にしたいから 3名 ○守られてきたものだから 4名	○若い世代が住みたいと思ってくれないと困るから 1名 ○地区開発も大切な考えだから 1名		
事後調査	24名	5名	1名	0名	0名
理由	○歴史として大切にしたいから 8名 ○発表を聞いてそう思ったから 12名 ○珍しい遺跡だとおもうから 4名	○未来の子どもたちに残したいから 2名 ○遺跡や古墳について分かったから 3名	○優先順位があると思うから 1名		

資料 6 教材化した遺跡、古墳の写真

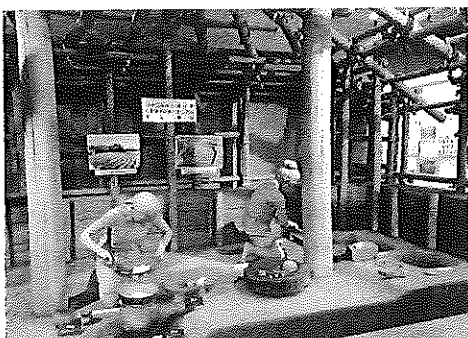
①外小代公園内 円墳（現在）



②八代玉作遺跡（現在）



③下総民俗資料館内 玉作工房跡の復元



④発掘された八代玉作遺跡の写真



# 誇りや愛情がもてる子

大切にしようとする  
想いに共感する。

私もっと地域のことを  
考えてみよう

地域を大切に想う人  
がいるのか

粘り強く  
課題を追求

理解を  
深めていく

もっと調べたいな  
もっと知りたいな

玉造にこんな歴史が  
あったのか

地域の文化財・歴史的背景

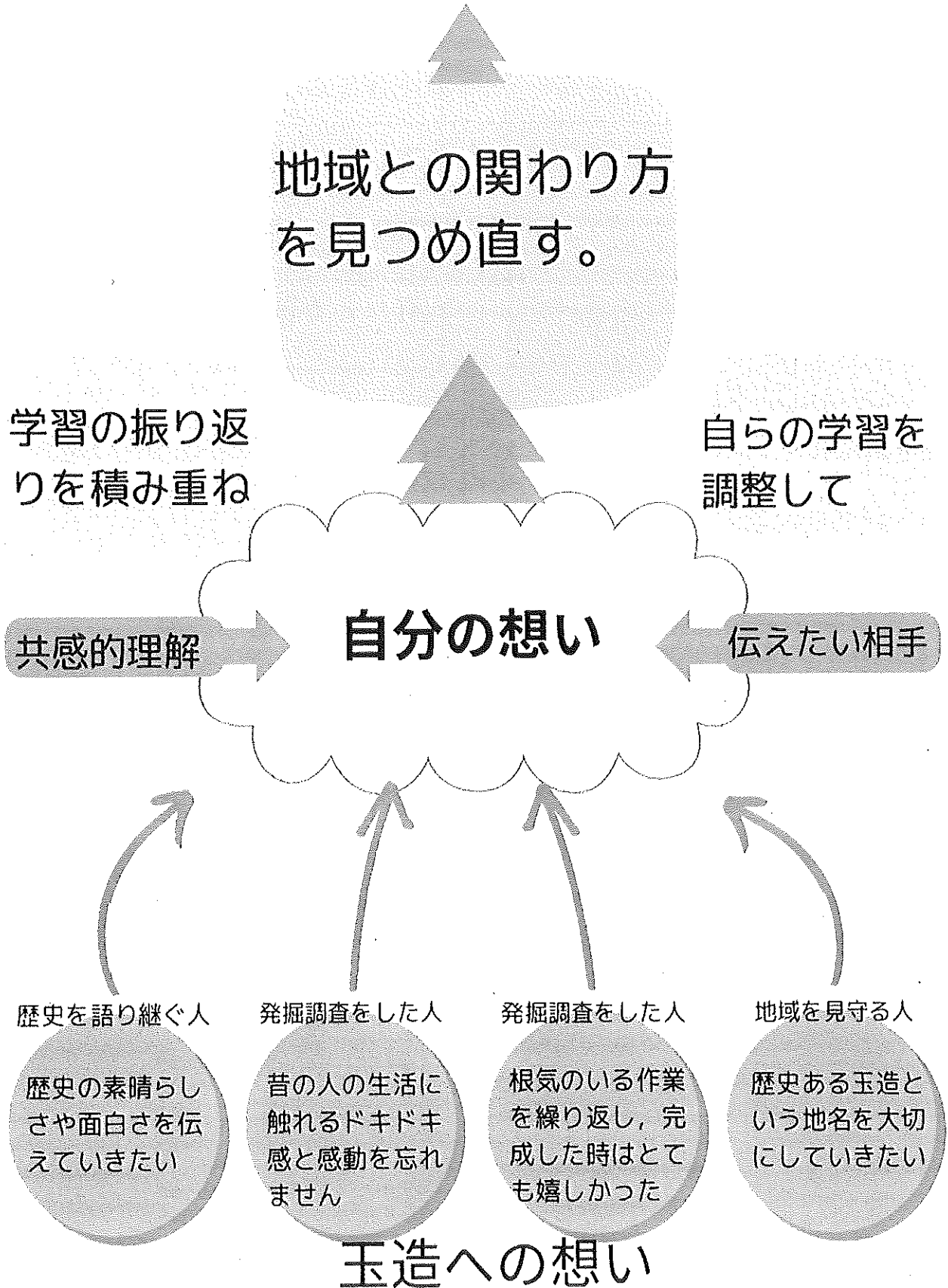
文化財を大切に想う人々

- ・ 八代玉作遺跡について
- ・ 古墳群について
- ・ どんな人々が住んでいたか
- ・ 現在までの経緯

- ・ 歴史を語り継ぐ人の想い
- ・ 発掘調査に携わった人の想い
- ・ 地域に昔住む人の想い

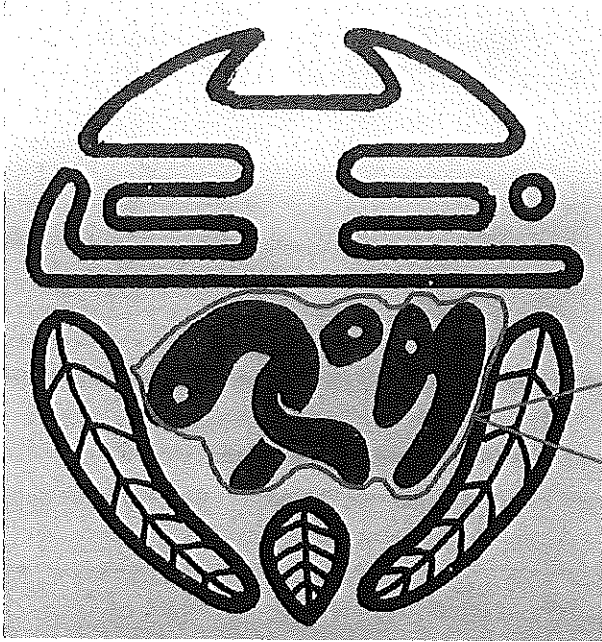
## 地域の教材化

# 誇りや愛情を表現できる子



資料 9 学習導入時に使用した資料

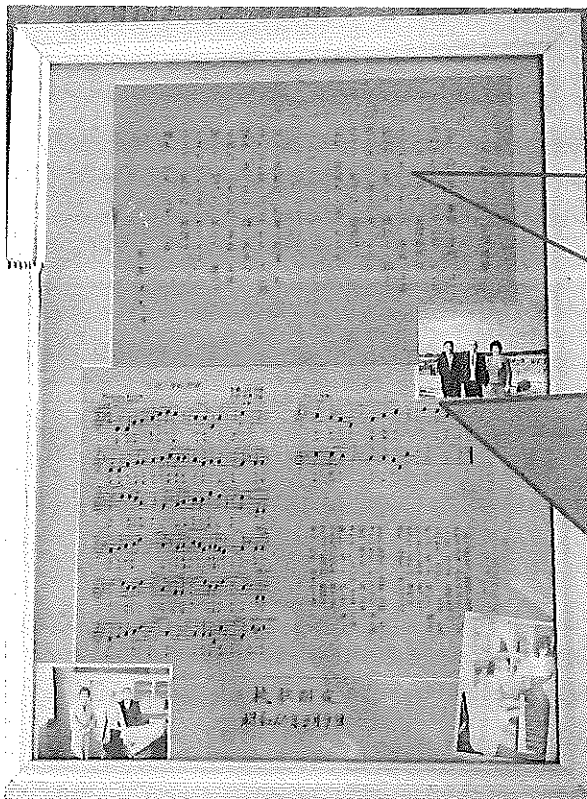
①校章



校章の「つくり」の部分が勾玉  
や管玉の形になっている。

八代玉作遺跡の発見が地名の由  
来となったため校章にも反映さ  
れたと予想できる。

②校歌の歌詞

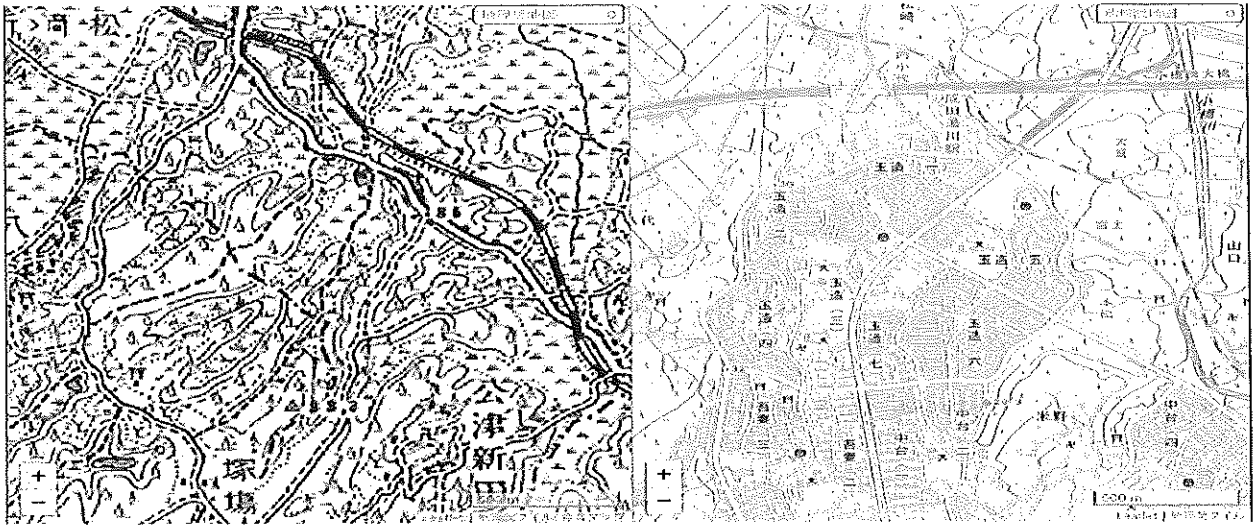


歌詞に「小高い森」や「その名もゆ  
かしい」、「平和のしるし」という部  
分がある。

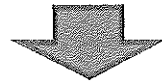
昔の土地の様子や歴史があったこ  
とを示唆する表現だと予想できる。



③現在と過去の地図の比較



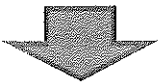
(出所:今昔マップ on the web)



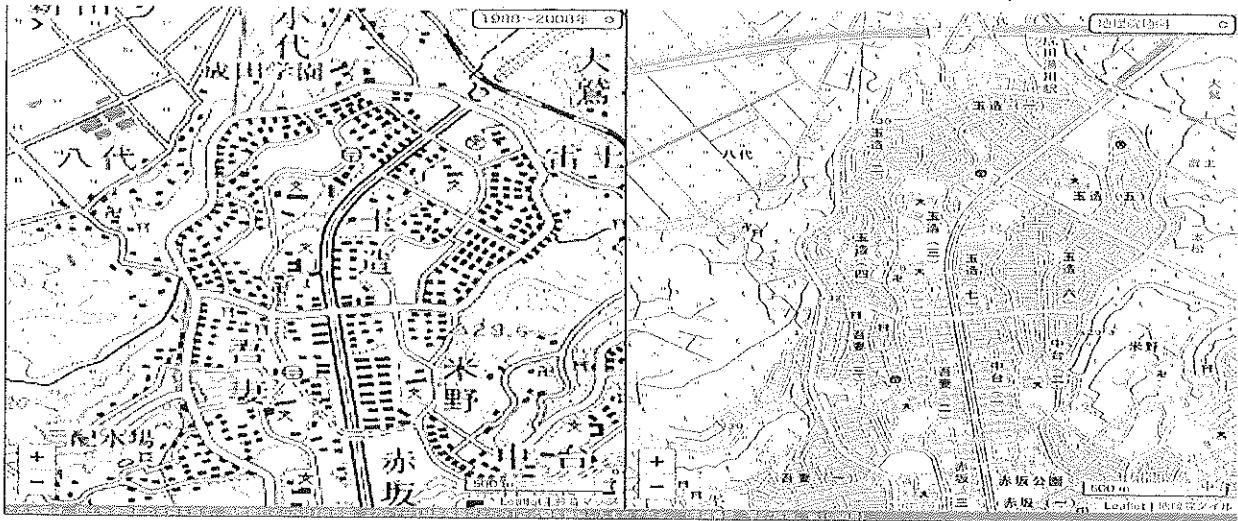
○1928～1945年の地図との比較時の児童の反応  
「校歌の小高い森は、昔の様子のことかもしれない。」  
「今の玉造の地形と全然ちがう。」  
「公津という地名は成田にあるね。」



(出所:今昔マップ on the web)



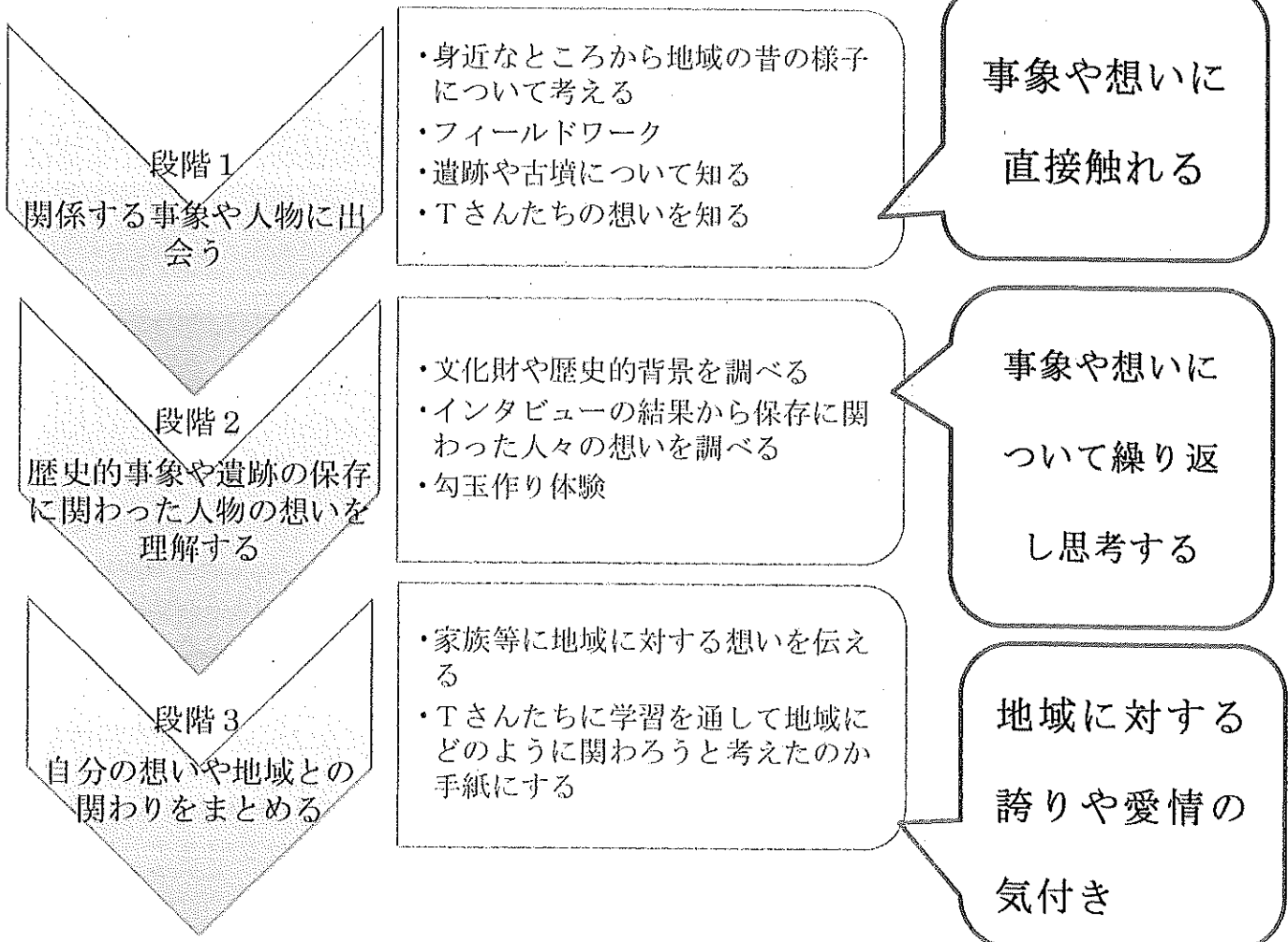
○1972～1982年の地図との比較時の児童の反応  
「玉造地区の周辺の形が今に近づいてきた。」  
「玉造という地名はまだないよ。」  
「道路なども整備されてきているね。」



(出所:今昔マップ on the web)

○1988～2008年の地図との比較時の児童の反応  
「玉造という地名が出てきた。」  
「玉造小学校や玉造中学校も開校しているよ。」  
「僕の家はまだないな。」

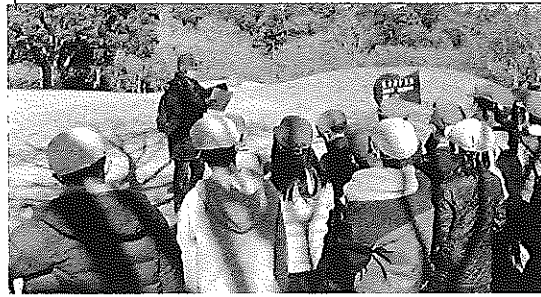
資料 10 誇りや愛情を育む授業構成図



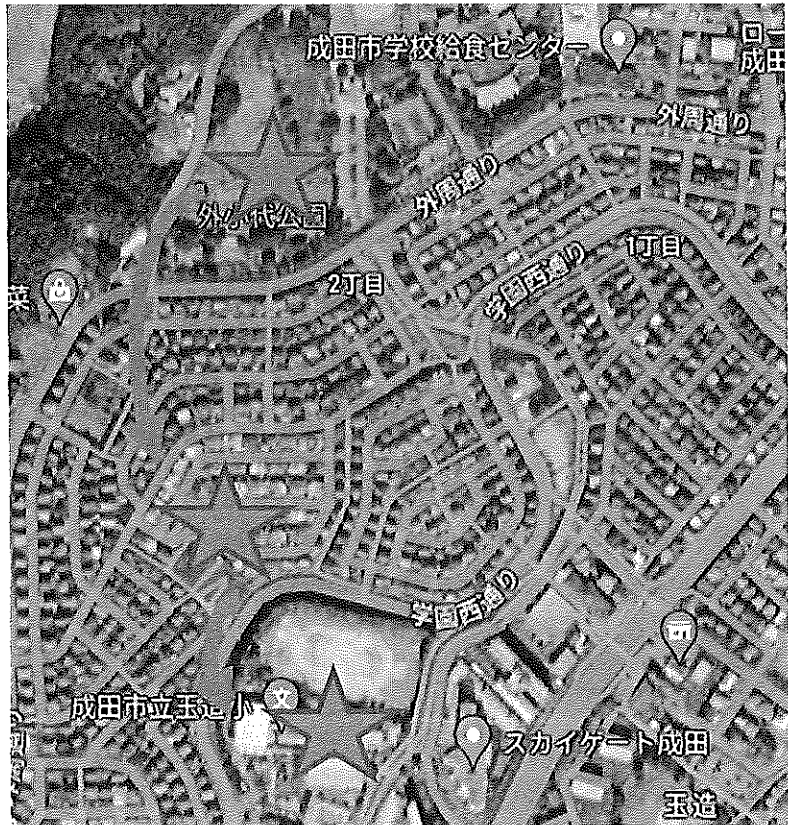


資料 11 フィールドワークの様子

① 外小代公園 古墳の見学・調査



② 八代玉作遺跡の見学・調査



(出所：Google マップ)

③ 学校にもどり、遺跡や古墳の説明や発掘当時の話を聞いたり、資料を見せてもらったりする。





**調べる**  
このように地図が活用されています。

**成田ニュータウンに残る、古墳**  
その昔、成田ニュータウン地区は、「常陸原」と呼ばれ、一面に原野が広がっていました。江戸時代の「何百何千石」とも、この一帯に古墳が存在していることが記されています。実際、ニュータウン内には、130基ほどの古墳が確認されています。これを、「常陸原古墳群」と呼んでいます。成田ニュータウン建設で半数以上の古墳が消滅しましたが、関係者の努力によって40基の古墳が保存され、平成2年には、県の史跡に指定されました。古墳からは、土器や埴輪など、当時の生活の様子を知る手がかりがたくさん見つかりました。



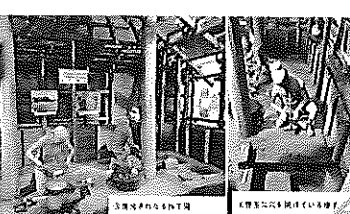
**「玉造」ができるまで**  
玉造地区は、その昔、形や曲線が広がる場所でした。その姿が大きく変化したのは、三里塚に成田国際空港を建設することになったからです。空港で働く人々や新たに引っ越してくる人々の住宅や学校を建てるために、成田ニュータウンの建設が始まりました。「玉造」という地名が誕生したのは、今から53年前のこと。当時、東日本で初めての玉作気流の集く調査で、玉作気流が確認されたことにもちなんで、「玉造」という地名が誕生しました。

この資料では、玉造という地名が誕生するまでの歴史的背景をまとめた。玉造地区にも残る、古墳に着目して、成田ニュータウンの変遷や出土品について学習するためのものとした。




**調べる**  
このように写真が活用されています。

**玉作を職業とする先人たち**  
古墳時代は、力を持った人たちが各地を支配する時代でした。当時の支配者は、管玉や玉が玉の飾りを身につけていましたが、それが一体どこで作られていたのかは、まだわかりません。昭和30年(1955年)に八代玉作遺跡の発掘が行われ、ここから16年(1971年)にかけて発掘調査が行われました。調査の結果、14棟の瓦葺土蔵跡、管玉やそれを磨るための道具などが見つかり、古墳時代の玉作遺跡だと明らかになりました。この遺跡は、日本で最初に発見された玉作遺跡で、埴輪、新幹線などの発掘品が走るなど注目されました。



**遺跡の発見と「玉造」**  
日本最初の管玉作といわれる「何百何千石」の中に、「玉造」という地名が、古の成田市のどこのあたりにあったとされています。玉作遺跡の発見は、この地名の由来を明らかにしたのです。これは、古の成田市のどこのあたりにあったとされています。玉作遺跡の発見は、この地名の由来を明らかにしたのです。これは、古の成田市のどこのあたりにあったとされています。玉作遺跡の発見は、この地名の由来を明らかにしたのです。これは、古の成田市のどこのあたりにあったとされています。

この資料では、玉造地区の歴史的背景についてまとめた。八代玉作遺跡を中心に、どんな人々が暮らしていたのか、どのようにして遺跡が発見されたのかについて学習するためのものとした。



**調べる**  
このように写真が活用されています。

**「玉造」のこれまでとこれから**  
昔の地面を出すために重機で掘り下げます。その後、じよんを使って表面を削っていき、昔の人の生活の跡が現れます。砂層ごとで丁寧に掘っていきます。土器などの破片が見つかったら、ヘラやハケで作業します。場所によっては、かべの傾きが違ったり、崩れすぎると壊れてしまったりするものもあり、丁寧に掘り進めなければいけません。昔の人の生活に感じることができるドキドキ感や昔のことに触れるおどろきと感動が伝わっていました。

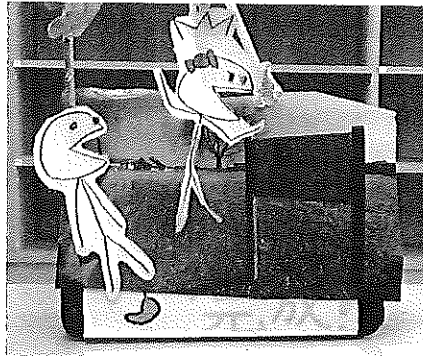
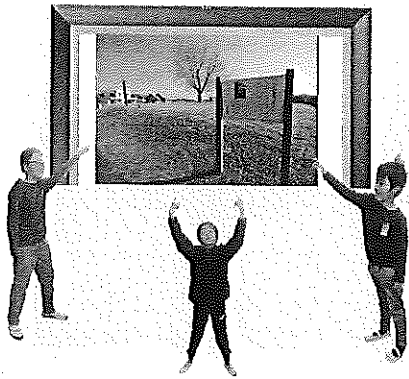
**土器の修復作業をした 内村さん**  
現場から掘いた土器の破片をブラシで洗い、きれいにした後、接合していきます。不足しているところは、石膏を使って完成させます。破片を一つ一つ接合できるか確認していくため、とにかく慎重な作業でした。復元できた時は、「やった！完成した！」と感動したことを今でも鮮明に覚えています。

**玉造で生活している 藤崎さん**  
今から43年前に玉造に引っ越して来ました。当時はまだ、周辺の駅もなく交通には大変不便な場所でした。少しずつ駅やスーパーが建設され、公園も広々としていてとても住みやすい場所になりました。新しい居住者が多く、玉造の遺跡や古墳についてあまり知られていないのが残念に思います。歴史ある「玉作」の地名を誇りに感じてもらいたいです。

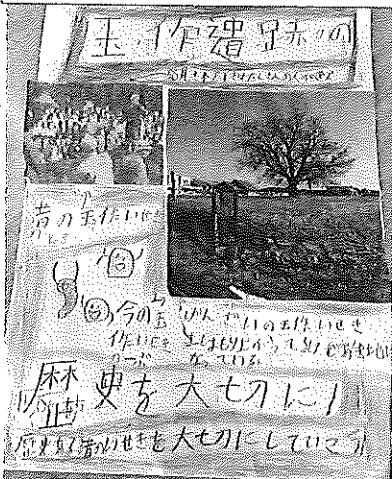
この資料では、遺跡の発掘調査に関わった人と、玉造が誕生した頃から住む人の想いについてまとめた。実際にインタビューで話していた内容を扱い、自分たちと地域との関わりを考えられるようにした。



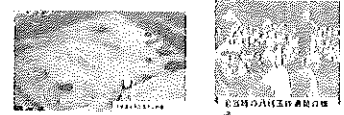
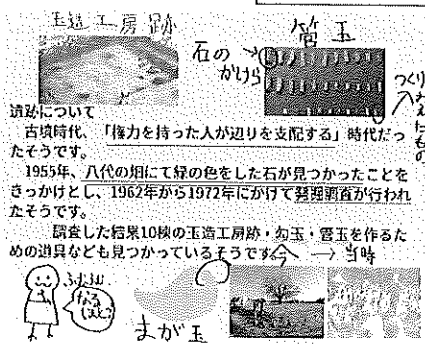
動画でまとめたグループ



ポスターでまとめた児童

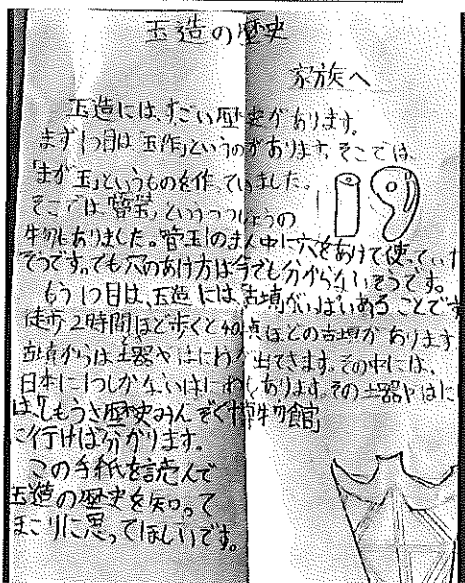


スライドにまとめたグループ

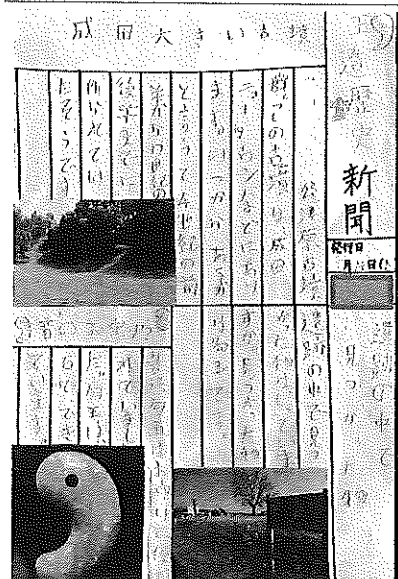


1962年から1971年まで発掘調査が行われました。調査の結果10棟玉作工房跡、勾玉やそれを作る道具が見つかりました。この遺跡は東日本で最初に発見された玉作遺跡で連日新聞やテレビの取材が来るなど注目されました。

手紙にまとめた児童



新聞でまとめた児童



資料 16 授業後に書いた手紙

みねさん  
4年生のころは玉造のことをいろいろ教えてくださりありがとうございました。おかげで知らなかった玉造のことをたくさん知れて玉造をもっと大切にしたいなと思いました。

みねさん  
本元まで行って、しつこくか？ 動物はあんなにもなりまして、本当にありがとうございます。またおかげで玉造にもたくさんお礼を言わせて玉造がさらに好きになりました。

みねさん  
玉造の歴史がすごく面白かったです。いろいろお話を聞かせてくださりありがとうございました。これからもいろいろお話を聞かせてください。

玉造の歴史を残していただくために、これからいろいろなことに挑戦しながら頑張りたいです。

これから玉造を大切に調べて他の人たちに伝えたいようにがんばります。

玉造の歴史がすごく面白かったです。いろいろお話を聞かせてくださりありがとうございました。これからもいろいろお話を聞かせてください。

ごみを気づけたりしてたりしなくて思いました。これからも頑張ります。

みねさんお礼を言わせてくださりありがとうございました。

「大切にしたい」「伝えていきたい」といった表現に加えて、「きれいにしていく」「ごみを拾う」という考えが多く見られる。

資料 17 段階ごとの評価のためのルーブリック表

段階 1 「関係する事象や人物に出会う」(知技①と主態①)

	評価基準
A	地域の人や資料館の人の話を聞き、歴史的背景や現在に至る経過、保存のための取り組みなどについて理解し、学習問題を追求し、解決しようとしている。
B	地域の人や資料館の人の話を聞き、歴史的背景や現在に至る経過、保存のための取り組みなどについて理解している。
C	上記以外

実際の振り返り (A 評価)	考察
この学習をするまであんな面白かったの初めてでした。でも学習をしてからにはもっと大事にしようと思います。	フィールドワークをすることで、今まで何のことも分からなかったことについて理解している。また、「もっと大事にしよう。」や「さらに詳しく知りたい。」など学習問題を追求して解決しようとする態度が読み取れる。
実際の振り返り (C 評価)	考察
昔はあんな面白かったの初めてでした。でも学習をしてからにはもっと大事にしようと思います。	「説明してくれた人がすごい」という振り返りになってしまっている。情報量も多く、難しい内容であったため、歴史的 content の情報を整理して伝える必要があったと考える。

段階2 「歴史的事象や遺跡の保存に関わった人物の想いを理解する」(知技①・②と主態①)

評価基準	
A	地域の遺跡やそれに関わった人々について調べ、保存したり受け継いだりした人々の想いについて理解し、自分たちにはできないことはないか考えようとしている。
B	地域の遺跡やそれに関わった人々について調べ、保存したり受け継いだりした人々の想いについて理解している。
C	上記以外

実際の振り返り (A の児童)	考察
<p>玉造のこれまでとこれからという学習をして昔から玉造にいた人たちの気持ちを伝えていって、分かってあげたい。このことを残したい。みんなに伝えていきたいと思います。</p>	<p>インタビューの内容を理解した上で、玉造地区のこれからについて「歴史に残りたいから知らない人に伝えていきたい。」という想いを表現している。</p>
実際の振り返り (B 評価)	考察
<p>土をほっているいろいろなものを見つけた。その見つけたものをポンドでくっつけたりしている。聞いて私は、楽しそう！おてんばい。いいました。</p>	<p>発掘調査の様子に着目して、その人の想いについて触れることができなかった。様子と想いを分けて、読み取りやすくするなど、自作資料の改善が必要であると考えます。</p>

段階3 「自分の想いや地域との関わりをまとめる」(思判表②と主態②)

評価基準	
A	調べたことを動画やポスターにまとめ、玉造地区に残る遺跡には、地域の発展などの人々の願いが込められていることについて理解し、これから地域とどのように関わっていけばよいか考えようとしている。
B	調べたことを動画やポスターにまとめ、玉造地区に残る遺跡には、地域の発展などの人々の願いが込められていることについて理解している。
C	上記以外

実際の振り返り (A 評価)	考察
<p>昔の玉造は、とても住みにくい場所だったのがとてもびっくりしました。理由は、今はとても住みやすい場所だからです。昔の人が住みやすくなるように努力してくれたからだと思います。後、私の住む地域には、何も歴史や、世界に一つしかないものなどないと思っていました。だけど、世界に一つしかない「ムササビ」の埴輪が、成田市で見つかったり、玉造には、古墳や、遺跡があったりすることを知ってびっくりしました。これからは、私たちよりも学年の低い子たちに玉造のことを知ってもらいたいです。そして、歴史を伝えて大切にしていきたいです。</p>	<p>学習前を振り返り、学習後の自分を見つめ直している。その上で、「これからは低学年の人たちに知ってもらいたい。」「大切にしていきたい。」と考えており、これからの地域との関わり方を考えている。</p>
実際の振り返り (B 評価)	考察
<p>昔は勾玉や管玉をつけていて力を表していた。つけていた人がどういう人が知りたい。どういう力が知りたい。力をもっていた人はどういうことをしているのか疑問。もしも勾玉や管玉の色を昔はつけられるのだとしたらどんな色なのか。予想 少し暗い色 どうやって色をつけたのか。それが色をつけていないのか疑問。</p>	<p>勾玉のことに関心が向いてしまい地域との関わりについてあまり触れることができなかった。単に体験をさせるのではなく、勾玉と文化財の関係を十分に捉えさせる必要があったと考える。</p>

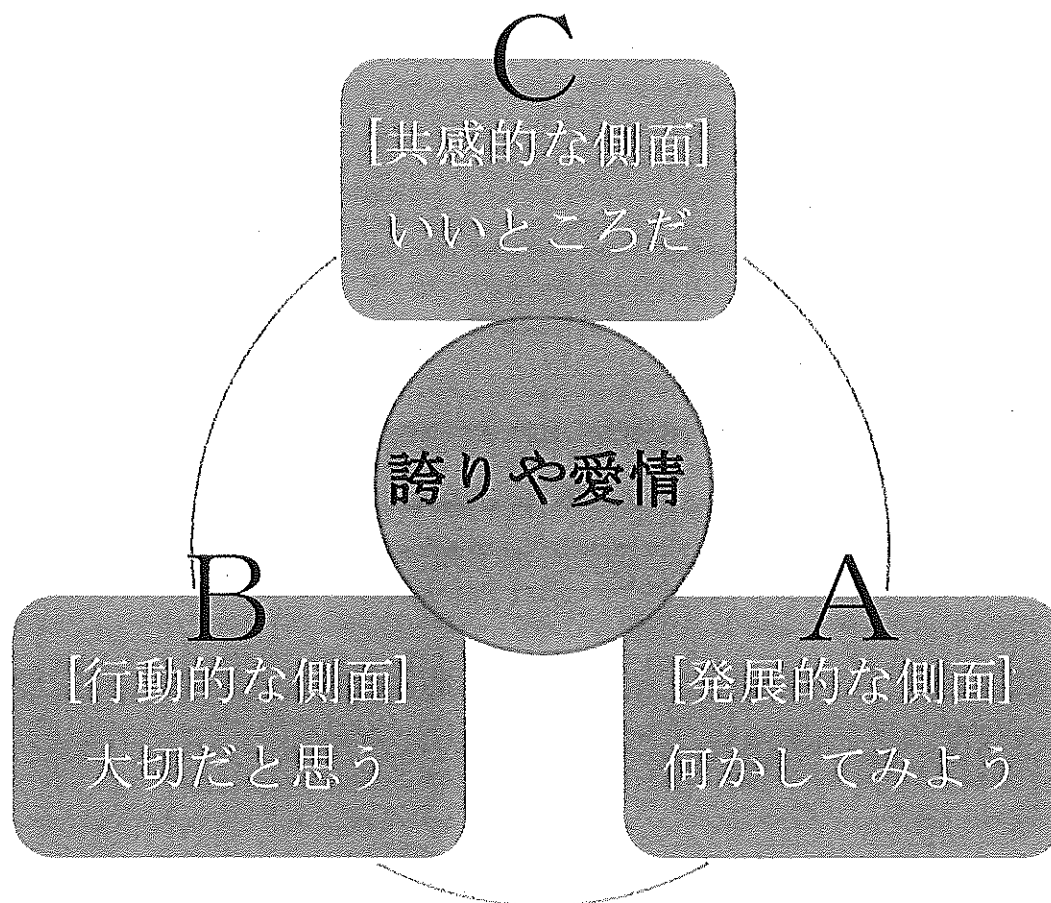
	それぞれの評価	抽出児童の振り返り (B→B→A)
調べ学習①	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ A ■ B ■ C</p>	<p>そして、玉造という地名がたんじょうしたのが東日本で初めての玉作遺跡の発くつ調査をして玉造という地名がついたそうだと。玉造と発くつとこかんとはにあがっながら、ていすごいなと思いました。</p>
調べ学習②	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ A ■ B ■ C</p>	<p>玉造では、みんなまが玉を作るのかしゆみだったのかもたないと思うと、玉造にまかたまか関係あるとなると少しびっくりです。そして、あたしも玉造に住んでいるので昔の人のようにまが玉を作りたいです。</p>
調べ学習③	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ A ■ B ■ C</p>	<p>最初は、玉造にはなにもすごいのはないとあちていって、この勉強をして玉造のいろいろなことについていまいちよりよそ、したようなきがしほれて、玉造に住んでいる小さな子とあちにもあちて歴史を私たちが伝えていきたいです。</p>

調べ学習①では、地域と遺跡のつながりを捉えることができているが、「すごい」という表現にとどまった。

調べ学習②では、前時よりも遺跡の理解を深めているが、「作ってみたい」という表現にとどまった。

調べ学習③では、学習前と後の考えの変容を捉え、「伝えていきたい」という地域に対する想いを表現している。

資料 19 児童のアンケートにおける 3つの視点

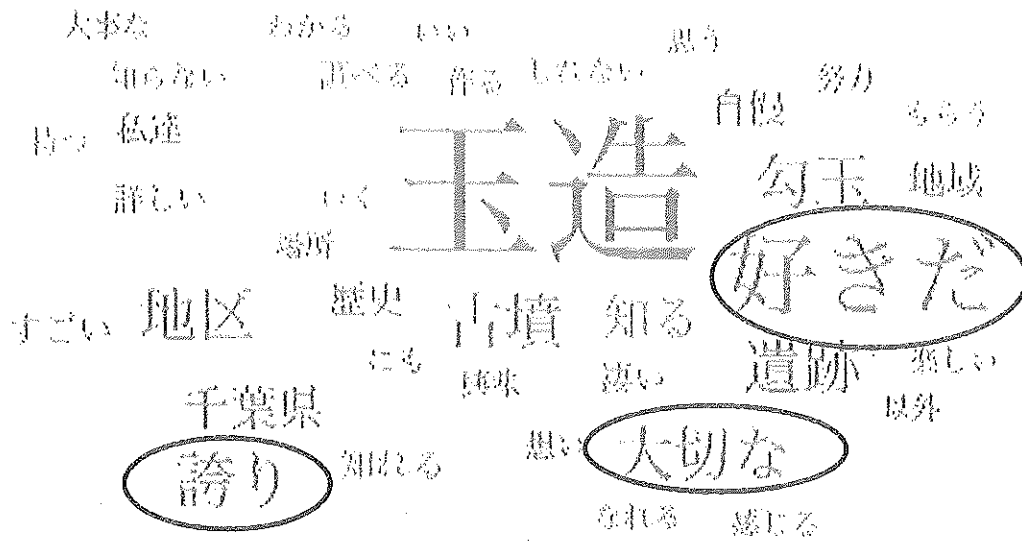


資料 20 情意面分類表

段階	分類基準	文例
C 共感的表現	フィールドワークや調べ学習を通して、歴史的背景や受け継いできた人々の想いを理解することができており、共感的表現を見取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～はすごい</li> <li>・～に行きたい</li> <li>・～に驚いた</li> <li>・～大変だと思う</li> </ul>
B 行動的表現	フィールドワークや調べ学習を通して、歴史的背景や受け継いできた人々の想いを理解することができており、自分の考えについての表現を見取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～していきたい</li> <li>・もっと～について調べたい</li> <li>・～だから〇〇だろう</li> </ul>
A 発展的表現	フィールドワークや調べ学習を通して、歴史的背景や受け継いできた人々の想いを理解することができており、地域の発展のために自己を見直したり、これからの生き方を考えたりする表現を見取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～について自分は〇〇していきたい</li> <li>・～のことをこれからは〇〇していこう</li> </ul>



資料 21 学習後の感想のテキストマイニング

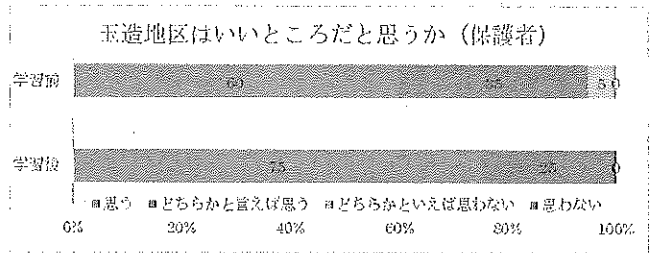


「好きだ」「誇り」「大切な」といった言葉が強調されており、授業を通じた児童の変容が見られる。また、そのことから児童が地域に対する誇りや愛情を感じさせることができたと考えられる。

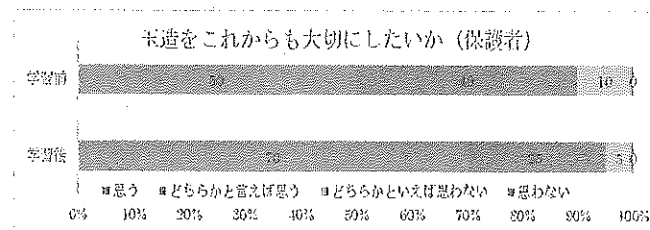
資料 22 仮説 2 の検証 保護者のアンケート結果の考察

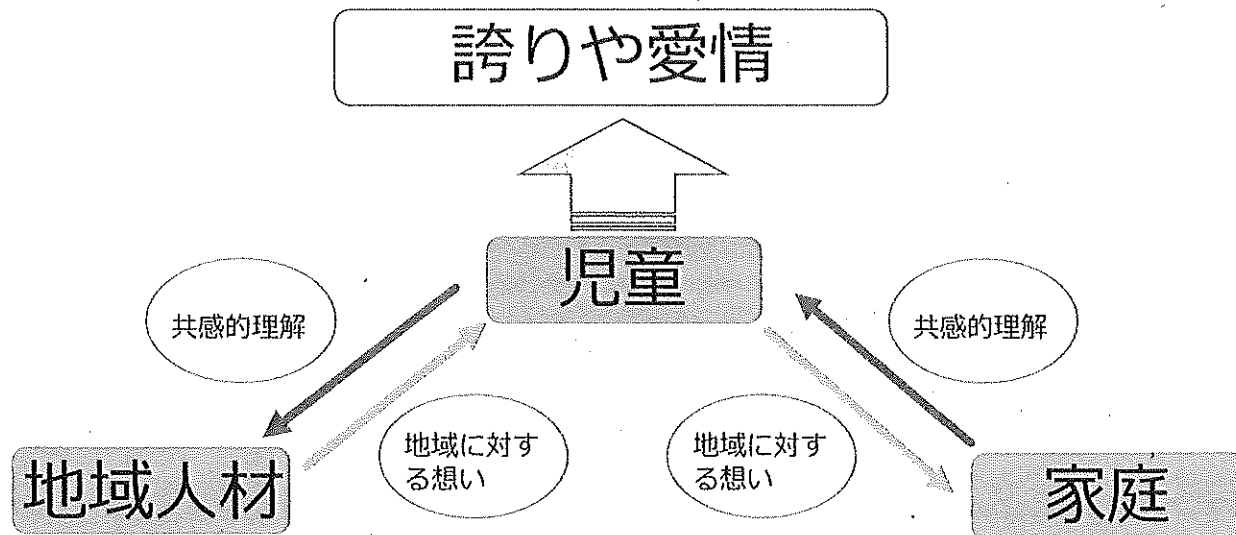
保護者を対象に行ったアンケートから児童の発表を受けて、学習前と学習後で変化が見られたか検証する。

「玉造はいいところだと思うか」という設問に対して、「そう思う」と回答した人は、学習前が60%、学習後が75%で15ポイントの増加が見られた。また、学習前には、「どちらかといえばそう思わない」と回答していた人も一定数見られたが、学習後は一人もいなかった。理由に注目してみても、学習後には「子どもの時はいいところだと思っていたが、児童の発表を聞いていいところだと再認識できた」という意見もみられ、児童の想いを受けて共感的理解がされたと考えられる。



「玉造を大切にしていきたいか」という設問に対しても、「そう思う」と回答した人が、学習前が50%、学習後が70%で20ポイントの増加が見られた。理由に対する回答も、「自分の誇りの地区だから」、「未来の子どもたちに伝えていきたいから」という意見が見られ、児童が学習後に感じていた想いと同等の想いを抱いており、児童が地域に対して誇りや愛情を認識するきっかけになったと考えられる。





参考資料

- 小学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 [小学校 社会]  
国立教育政策研究所教育課程研究センター
- わたしたちの成田市 成田市教育委員会
- 図説 成田の歴史 成田市
- 成田の地名と歴史 大字別地域の事典 成田市
- 広報なりた平成 13 年 12 月 15 日号 成田市
- 広報なりた平成 13 年 6 月 15 日号 成田市
- 広報なりた平成 16 年 7 月 15 日号 成田市
- 広報なりた昭和 60 年 6 月 1 日号 成田市
- コミュニティー成田昭和 60 年 1 月号 成田市
- 資料館だより令和 4 年 3 月号 成田市下総歴史民俗資料館



